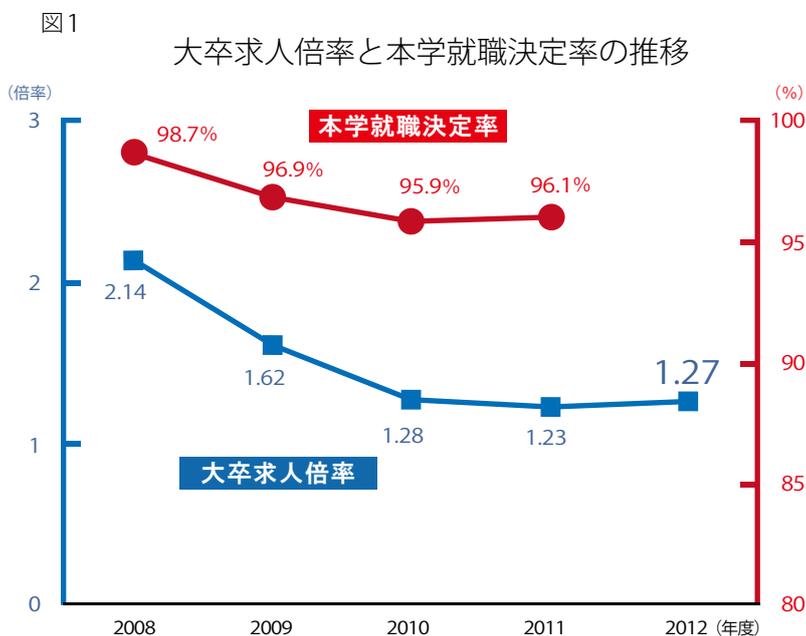


2012年度就職状況－10月調査結果報告－

■不透明感増す就職環境

2008年の金融危機に連鎖した世界的な不況の影響を受けて2009年度以降は就職氷河期の再来とも言われていますが、今年度の就職状況も依然として厳しく、本学学生も大変苦戦しています。

図1の通り、来春2013年3月卒業予定の大卒求人倍率は、1.27倍と、前年（1.23倍）より+0.04ポイントと5年ぶりに上昇しました。



しかし、経済のグローバル化の一層の進展に伴う国際的な企業間競争の激化やグローバル人材の採用拡大などにより、これまで以上に社会が求める人材と大学が供給する人材のレベル格差が広がっているとも言われています。さらに世界景気の減速や日中関係の悪化も相俟って、今後の就職環境を一層不透明なものにしています。

■昨年同時期比較では内定率上昇

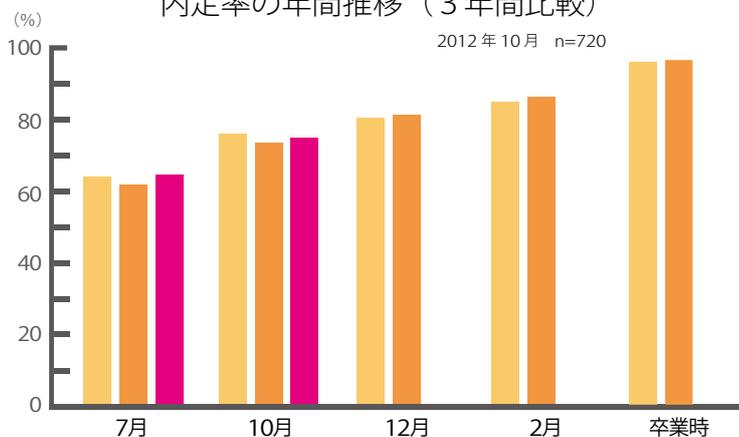
本学では、そうした厳しい就職環境の中での学生の進路状況を把握するために、卒業予定者の7月、10月、12月、2月時点の内定状況について、その約1割を対象にサンプル調査を実施しています。

図2は、2010・2011年度と本年度の内定率を比較した本学の調査結果データですが、7月10月ともに過年度と大差はないものの、今年度10月では74.7%と昨年度と比較すると僅かに上昇しており、順調に推移すれば卒業時には昨年並かそれ以上の就職決定率になることが予想されます。

■学員のご協力による就職支援企画の拡充

キャリアセンターでは、2013年度入社以降の採用広報開始を10月1日から12月1日に変更することなどを定めた「採用選考に関する企業の倫理憲章」を受けて、低学年からのキャリア形成支援はもとより、学生個人に寄り添った面談を中心に据えた直接的な就職支援を重点的に展開しています。中でも特に学生からの評価の高い、3年生対象の学員との交流会や学員を講師に迎えての面接力アップセミナーの拡充にあたっては、学員の方々これまで以上にご協力いただいています。

図2 内定率の年間推移（3年間比較）
2012年10月 n=720



年度	7月	10月	12月	2月	卒業時
2010年度	63.9	75.8	80.2	84.8	95.9
2011年度	61.7	73.3	81.0	86.0	96.1
2012年度	64.4	74.7	-	-	-

OB・OG 交流会の拡大実施

今年度も学员の方々のご協力をいただき、11月24日（土）学生と企業で活躍する学员との直接交流の場である「OB・OG交流会」を開催しました。参加学生155名に対し、学员39名（37社）と、多数のご参加を賜りました。当交流会は学员との交流を通して、学生が「社会に出ること」「働くこと」をより具体的にイメージできる機会の創出を目的としています。開催にあたっては学会会南甲倶楽部のご支援もあり、様々な業界から世代を超えた学员に多数ご参加いただき、就職活動に臨む主に3年生にリアルな情報を届けていただきました。また、交流会の前には「業界研究会」と題し、本学学生の志向性の高い、金融・製造業・商社等で活躍する学员の方を数名講師に招き、同窓の先輩ならではの切り口から、各業界への理解を深める勉強会も開催しています。

社会人と接する機会の少ない学生にとって、実際に社会で働く学员の生の声を直接聞ける当交流会は学生の満足度が大変高く、12月からの就職活動への意識付けともなっています。終了後の学生アンケートでは「社会人の楽しさ、厳しさを身を持つ

て体験し、働くことに対する意識が上がった」「就活はもちろん、これからの人生において刺激を受けた一日だった」「OBだからこそできる質問や業界研究が面白かった」等の声が寄せられました。

交流会後もこれをご縁にOB・OG訪問等で引き続き学生を支援して下さる学员が多く、学生の就職活動においても、学员のご協力に支えられています。

なお、社会人と接点を持てるイベントは学生の需要が高いことから、年明け早々の1月13日（日）の面接力アップセミナーの後にも同様の交流会を開催予定です。

OB・OG 交流会（今後の予定）

12月1日（土）
駿河台記念館
学生 160名
学员 52名（38社）

1月13日（日）
多摩キャンパス クレセントホール
学生 280名
学员 18名（18社）



業界研究会の様子



多くの卒業生と在学生在で賑わう会場

「父母連絡会」の活動報告

中央大学では、関東の大学の中でもいち早く、大々的に父母懇談会を開いており、全国のご父母の皆さまに大学情報の積極的発信、ご子女の学校生活情報の提供・相談を行っています。

30年前に発足した父母連絡会は徐々に大きくなり、昨年度全国54支部で開催された懇談会への参加者は5,007名。5年前に比べて約900名増えました。

保護者の関心は①成績②就職③資格取

得の順に高く、就職活動については、「自己診断テストを通じて社会的な強み・弱みを認識させ、1年生から行動特性に着目したキャリア育成を始める」という大学のキャリア教育の手法に、興味を持たれる方が多数います。

今では、大企業志向よりも、自分の適性に合った企業選択が大事であることをしっかりと保護者へお伝えできる良い機会となっています。



父母懇談会会場（埼玉県支部）